

資料4-2

# カーボンニュートラルLPG、 航空機のオフセットについて

2025年日本国際博覧会協会  
持続可能性部

2023年 2月 1日



# 「持続可能性に配慮した調達コード」

2022年6月30日に、物品やサービスの調達プロセスにおける持続可能性への配慮を実現するための基準や運用方法等を定めた「持続可能性に配慮した調達コード」を策定・公表した。

物品別の個別基準の追加等について引き続き検討している。

## 内容

持続可能性に配慮した調達コード



GL 4-8-1  
GL 5-1-1  
GL 9-1-1  
GL 10-1-1 2022年6月

1. 趣旨
2. 適用範囲
3. 持続可能性に関する基準  
(共通基準)
  - ▶ 全般
  - ▶ 環境
  - ▶ 人権
  - ▶ 労働
  - ▶ 経済
4. 物品別の基準 (個別基準)
  - ▶ 木材
  - ▶ 紙
5. 担保方法
  - ▶ 調達コードの理解
  - ▶ 事前のコミットメント
  - ▶ 調達コードの遵守体制整備
  - ▶ 伝達
  - ▶ サプライチェーンに対する調査・働きかけ
  - ▶ 取組状況の記録化
  - ▶ 取組状況の開示・説明
  - ▶ 遵守状況の確認・モニタリング
  - ▶ 改善措置
  - ▶ 運営主体等に対する追加措置
  - ▶ 通報受付窓口 (グリーンズ・メカニズム) の設置



# 「持続可能性に配慮した調達コード」

調達コードは、大阪・関西万博が環境・社会・経済に与える影響について、リスクの低減を図るとともに、ポジティブな効果が広がり、環境・社会・経済の分野においてレガシーを残すことを目的としている。

博覧会協会は、調達コードの遵守を、サプライヤー、ライセンサー、パビリオン運営主体等及びサプライチェーンをはじめとする関係者との共同の取組として推進するとともに、SDGsの実現に向けて、同様の取組が拡大し、広く社会に持続可能性を重視する姿勢が定着するよう働きかけていく。

## 持続可能性に配慮した調達コードの適用範囲



① サプライヤー：協会と直接契約をしている事業者



② ライセンサー：マスターライセンサー（各ライセンサーの管理を行う事業者）



③ パビリオン運営主体等：公式・非公式の参加者、一般営業参加者、未来社会ショーケース事業参加者、TEAM EXPO参加者、催事参加者等

①②③に対して物品やサービスを提供する事業者（この先の事業者も含めて「サプライチェーン」という）



# カーボンニュートラルLPG

## 状況

- 大阪関西万博では基本的にパビリオンではガスを使用しない設計となっているが、店舗での調理等でどうしても使用したい場合には特別規則上LPGを使用できることになっている。この際のガスの調達についてはLPGを参加者がそれぞれ調達することとなっている。
- 参加者による会期中の会場内の燃料燃焼によるCO<sub>2</sub>排出は万博のScope1（直接排出）と整理しており、当該部分のカーボンニュートラルを目指すにあたっては対策が不可欠。

## 対応

- 参加者がLPG調達の際はカーボンニュートラル※なものを調達することを調達コードへ追加するよう2月10日開催予定の調達WGでご議論いただき、意見募集等を経て今年春をめどに決定いただく。

※クレジットによるオフセット、バイオ由来のものなど、燃焼時のCO<sub>2</sub>排出量が実質0であるもの。



# 航空機のオフセット

## 状況

- 大阪関西万博においてはGHG排出のバウンダリとして、本来企業の運用するGHGプロトコルには含まれない来場者等の排出を算入することを定義。特に海外からの渡航者が航空機を利用することによる排出量は全量を算入することとした。
- この結果排出量を算出すると、万博全体の排出量の約7割が来場者由来の排出となっている。
- 航空業界へのヒアリングの結果、各社にてSAF（持続可能な航空燃料：Sustainable Aviation Fuel）の導入や渡航分のGHGをオフセットする追加メニュー等の用意をしているが、利用率は非常に低いのが現状であり、このままでは来場者由来の排出量の大部分の削減対策が進まないことになる。

## 対応

- 来場者や参加者、物流において航空券やツアーを手配する際にオフセットクレジットの購入を推奨することをLPGと同様に調達コードに追加するようご議論いただく。

